



2020東京五輪空手組手競技における 得点経過に着目した試合展開の特徴

大徳紘也（日本体育大学大学院）
西山哲成, 大石健二（日本体育大学）

（公財）全日本空手道連盟
令和6年度アスリート・指導者セカンドキャリア助成事業関連研究



空手組手競技における得点経過の分析から、試合展開に関する特徴を明らかにし、実戦的な戦術指導に応用可能な知見の獲得を目的とした。

方法

■分析対象

2020東京オリンピック空手組手競技全試合において、スコアによって勝敗が決した118試合を対象とした。

〔女子:56試合
男子:62試合〕

尚、同点による引き分け、同点による判定決着、反則による勝敗決着の試合は、分析対象から除外した。

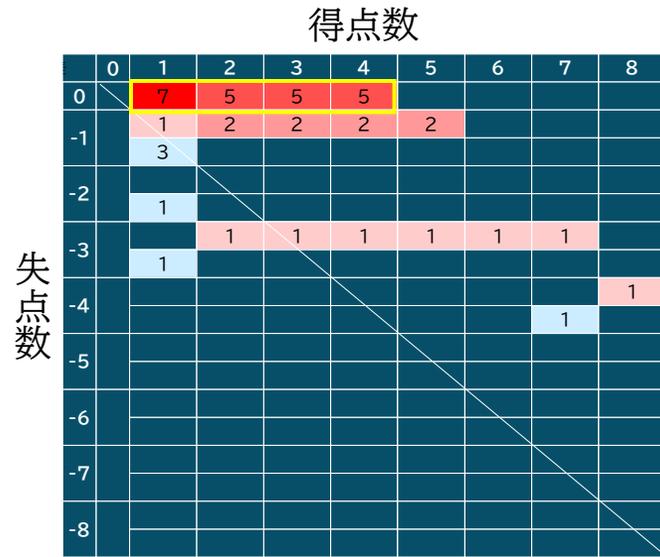
■分析方法

データ収集:東京オリンピック公式競技記録

(URL:https://library.olympics.com/Default/doc/SYRACUSE/849101/results-books-tokyo-2020-the-tokyo-organising-committee-of-the-olympic-and-paralympic-games?_lg=en-GB)

分析項目:勝敗, 最終スコア, 得点数及び失点数と連続数

結果(得点経過パターン)



先行型

- ・先取点獲得
- ・同点及び逆転される展開とならずにリード継続
- ・試合終了



混戦型

- ・先取点獲得
- ・3点差以内の状況で得点及び失点する展開
- ・試合終了



逆転型

- ・先取点失点
- ・得点又は失点する展開の後に逆転
- ・試合終了

考察

■ 競技現場における得点経過のモニタリングの可能性について

本研究に用いた分析手法により、得点経過に沿った現状の得点差を客観的に把握することができる。既にバレーボール研究では同様の手法による予測分析が行われている(遠藤と志村・1992)。空手組手競技においても、勝率と合わせた勝敗の予測が可能となると同時に、戦術指導に活用できる新たな評価指標となることが期待できる。

